１２月徒歩例会　　引野の史跡めぐり

＜探訪スケジュール＞

福山駅南口集合	距離（Ｋｍ）	時刻	備考
中国バス駅前発		８：２９	
福山テニスセンター入り口着		８：５５	例会発会式
〃　発	０．０	９：１５	その他
新岩谷窯跡着	０．２	９：２０	
〃　発		９：３０	
長崎古墳着	１．２	９：５５	
〃　発		１０：１０	
皿山集会所着		１０：２５	トイレ休憩
〃　発つ		１０：３５	
岩谷窯跡着	２．７	１０：５０	
〃　発		１１：００	
沖浦公園着		１１：２５	トイレ休憩
〃　発		１１：３５	
手城山城着	３．６	１１：４０	
昼食開始		１２：００	
〃終了		１２：４０	
手城山城発		１２：４０	
長浜貝塚跡着	４．１	１２：５５	
〃　発		１３：０５	
百間土手着	４．６	１３：１５	
〃　発		１３：２０	
宅部貝塚跡着	４．９	１３：２５	
〃　発		１３：３５	
宅部公民館着		１３：４０	トイレ休憩
〃　発		１３：５０	
宅部城跡着	５．４	１３：５５	
〃　発		１４：０５	
不動里着	６．４	１４：１０	
〃　発		１４：１５	
谷地池大師着		１４：２５	トイレ休憩

〃　発		14：35
矢崎城跡着	6．8	14：40
〃　発		14：50
塩田城跡着	8．4	15：20
〃　発		15：30
古地バス停着	8．9	15：40
井笠バス福山駅行		15：44
		16：24

引野の史跡めぐり

１、引野の地形

引野は旧福山市の東南に接し、旧深安郡の最南端の村である。南側は海で、東隣は大津野村・津野下・大門と接し、北側は市村・鍋蓋と春日村・吉田・能島とに接した地域である。

引野は江戸時代・正保年間の水野干拓により沼田ができるまで、鉤の手状の丘陵であった。福山湾の東側に突出した半島の西半分（東半分は津野下）と春日村との境をなす西側に突出した半島の南半分（北半分は吉田）は、中世の五ケ庄西南部に位置する。

また、東側の丘陵の南西端に手城島があり、丘陵中程百間沖に梶島があつた。正保四年（１６４５）に、この梶島と東側の丘陵の中程（宅部端）との間に百間土手を造り、北側の丘陵の先端（高崎）との間に石樋畷を造って干拓をし、引野新涯が造られた。その後、さらに深津新涯と手城新涯が造られて現在の地形となつた。

昭和２０年の終戦までは、新涯が出来る前の海岸線に旧道があり、その旧道の山側に沿って主に民家があつた。新涯はすべて田圃であった。
したがって、引野に史跡があるとすれば、この海岸線に沿った山側の丘陵にある。引野はこの鉤の手になった丘陵にひらけた村落である。西北端の高崎から順に、前古屋・内田・古地・竹内・山ノ上・不動里・宅部・そして島であった梶島山があり・長浜・現在のＮＫＫが出来る以前の海岸に出て沖浦・宮の谷・皿山・南東端の長崎の各集落がある。　（地図参照）

２、引野の史跡探訪

引野の史跡調査探訪を古墳が長崎にあるとのことから、南東端の集落の長崎から逆順に探訪することにした。

１）長崎地区

中国バスの長崎停留所から西へ１００Ｍ程行くと、長崎の観音（引野三十三観音の第二番）がある。その前の広場に地元の古老二人（沖藤育男氏と沖藤昇氏）に来ていただいて話を聞いた。

まず、長崎の地名のいわれを聞くもはっきりしない。長崎の地に最初に住

んだのは城本氏といわれているとのことである。現在長崎に多い沖藤氏は後に出て来たものとのことである。

第二次大戦中に、この浜に海軍航空隊ができ、海岸線に道路がつけられて引野の浜に大きな変化がもたらされ、海岸線の自然も変ってしまった。
この時戦前の引野海岸の写真を見せてもらった。この写真には、皿山の海水浴場も写っており海から眺める昔の引野の山々を懐かしく偲ぶことができた。
また、当時の海岸には、皿山岩谷焼の破片や窯道具が散乱していたのを思い出す。現在の皿山集会所には明治時代以後の「皿山のうつりかわり」を書いた立札が建ててある。

（１）新岩谷焼窯跡

長崎の観音前の道を少し登って行くと左側に窯跡がある。これが、新岩谷焼の窯跡である。明治１２年に築窯されたもので皿山の岩谷焼の陶工によって始められたものである。窯は大正１４年まで使われていたが、第一次大戦後の不景気のため廃業となった。その後、第二次大戦後の昭和３０年頃までは連房の登窯が、その偉容を見せていたが、沖藤昇氏の本家に蜜柑を植えるために破壊したとのことである。現在その遺構は窯の焚口の一部をのこすのみであるが、付近に散らばっている築炉煉瓦片で十分に往時を偲ぶことができる。

（２）長崎古墳

引野に残る唯一の古墳が長崎にあり、「引野町誌」では大谷古墳として、その写真を載せている。この写真を二人の古老に見せたところ、直ちに所在が判り、沖藤育男氏の蜜柑畑の隣にあるとのことで、案内してもらった。

長崎古墳

大谷というのは、長崎の東側の谷で現在鋼管道路が通っている。大谷にも現在ＮＫＫの大きなタンクがあるが、そ

の辺に古墳があったとされているが今は何もない。したがって現存している古墳は長崎古墳というべきである。　長崎観音の前から、山一つ西側の舗装道路を山へ登って行くと皿山団地に着く。その団地の上の山の中腹に南に口を開いた横穴式の石室が長崎古墳である。

古墳の周辺は傾斜のきつい山の側面で、雑木が繁り古墳の口だけがなんとか判る程度にブッシュで覆われている。墳丘の盛り土はほとんどなくなっており、盗堀のためか石室も一部破壊されている。玄室は残っているが、羨道部分は側壁の石積みの一部が残って居るのみで、天井部分は破壊されている。

石室は全長約４，５Ｍ、玄室部分が長さ約２Ｍ、高さ約１．５Ｍ、幅約１．５Ｍで羨道との境は片袖になっている。

早い時期に詳細な実測調査をする必要がある。引野にこのように立派な古墳が残っていることに、改めて引野丘陵の古代の様子に思いを馳せ、他にも何等かの遺跡が近くにあったであろうと考えられる。

そこで沖藤氏に引野丘陵の最高点の天馬に案内された。天馬には昭和３０年頃まで引野平野からも遠望された大きな松の木があり、その近くに大きな石積みがあった。それを探したが雑木が繁り見つけることはできなかった。

２）皿山地区

（１）岩谷焼皿山窯跡

引野の岩谷焼は江戸時代文政年間に開窯したと言われている。引野岩谷に陶土が発見され、福山藩木庄焼が移って来て皿山を開いたとされている初期は磁化ができず半磁器であったが、その後磁化に成功し発展した。
とくに、保命酒の徳利の生産で有名となり、藩も後援して備府岩谷という名で全国に知られるようになった。ところが、明治維新の変動後衰微していき、明治１７年に煙を断った。

岩谷焼窯跡は中国バスの皿山停留所から１００Ｍ程の所にあり、現在は清水洋氏の屋敷になっている。この屋敷裏の藪に窯跡と思われる谷状の窪みが二列ある。窯跡の二列の間の高台に比較的大きな祠が祀られており、鳥居が立っている。これは三神社といわれる土・水・火の神様で、陶窯にはどこでも祀られている。

次の機会には、清水洋氏に会って話を聞いて調査したい。

3）沖浦地区

沖浦は引野丘陵の南端海岸線にある集落で、漁村であった。第二次大戦の時、大津野村・津野下の浜に海軍航空隊ができ、沖浦には造船所ができてこのあたりの様相が一変した。それまでは美しい海岸線に漁船が繋がれた静かな浜辺であった。

（1）沖浦大師堂

江戸時代に四国八十八ケ所の巡礼が盛んになり、この沖浦から船が仕立てられた。その船待の人々が多く集まるようになり、その待合所として引野の谷地の松浦氏が堂を建て、御大師を祀ったとされている。

4）手城島地区

手城島は引野の沖浦の先約５００Ｍの福山湾の東南端入口に浮ぶ島で、元は引野に属していた。、水野干拓によって引野沖浦から手城島そして福山座床まで潮止土手が造られ、手城新涯が完成して寛文６年（１６６６）から陸続きとなり、新しく手城村ができた。

現在は手城山を挟んで樋門が設けられ、干拓によって造成された海面下の福山東部平野の水利を調節する重要な場所である。

（1）手城山城跡

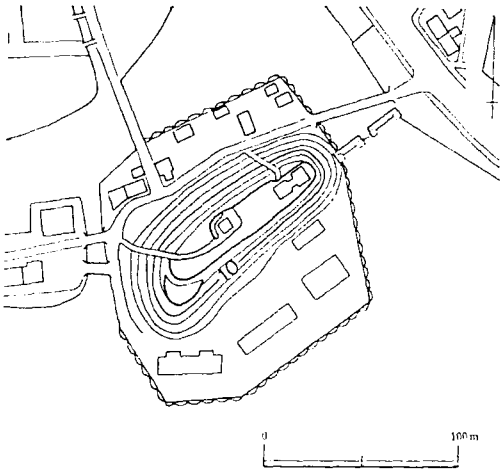
手城山は福山湾の入口に浮ぶ孤島で、周囲は切り立った岩石で容易に船舶を寄せ付けないような要害堅固な島であった。福山湾へ出入りする船の交通監視に重要な位置にあり、早くから番所が設けられていた。

手城の名の起こりは、この番所が先手・船手という手の者の城という意味で、古くから「五ヶの手嶋の城」といわ

手城山城跡

れていた。

永正5年（1508）大内義興の上京後、その将滋野氏がこの城に入り、天文年間には小早川氏が神辺城攻撃の際、家臣の乃美備後守をいれ海上から圧力を掛けたとされている。その後は詳らかではないが、江戸時代に記された「備後古城記」には滋野盛久、倉田孫次郎、藤井太郎左ヱ門などが在城したとされている。



58 手城山城要図

手城山城要図

城郭の遺構は平面長円形の独立小島の頂上部を削平して郭をつくったものである。現在は天当神社の境内になっているが、三段の郭跡が見られる。

（2）天当神社

寛文6年の水野干拓により陸続きとなった手城山に元禄7年に、引野沖浦宮の谷にあった天道大明神の分霊を時の代官高橋儀右ヱ門が移した。そして手城新田の入植者に農業神として祭ることを命じた。
本来、天道様であるところを訛って天当様の当て字が使われ、天当神社として祀られるようになった。そこで、手城山を天当山ともいうようになった。

5）長浜地区

長浜は江戸時代の水野干拓によって手城新涯ができるまで、福山湾に面した引野丘陵の西側麓の海岸線にできた長い浜辺であったことからの地名である。この長い浜辺に古くから人々が住み着いていた。

（1）長浜貝塚

『福山市史』によると、引野の須恵器のでる貝塚の一つとして書かれている。

地元の古老（広井正氏）に聞くと現在の長浜小学校の前の谷を掘ると、いくらでも貝殻がでるとのことである。

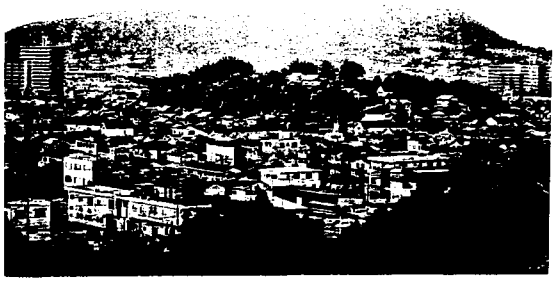
現地を尋ねたが、今はそれらしいものを見つけることはできない。

6）梶島山地区

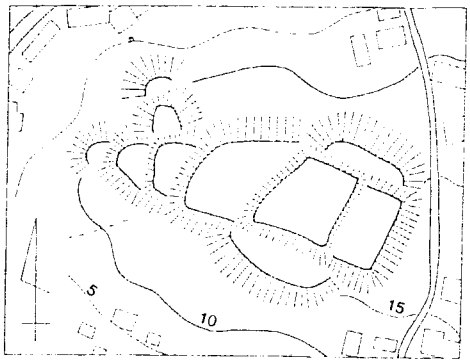
梶島山は梶間山ともいうが、福山湾に浮かぶ小島で、古地浦の防波堤のように東西に延びて居た。引野沼田造成のとき石樋畷と百間土手の築堤で島の土を使い、さらに、正保4年の王子端と島を結ぶ千間土手の築堤による深津沼田造成時に島の土を運びだし、この山が現在のようにほとんど岩山に化した。西方向へは現在より大きく張り出していたと思われる。千間土手方向の地面は真砂土であるのに北側部分は山際からすぐドベ土である。この島に中世に梶島城があり、福山湾の海上交通の見張り役を務めていたと言われているが、人々が定着したのは手城新涯が造成されてからといわれている。

（1）梶島山城跡

梶島山城は賀嶋城ともいわれ、福山湾東に浮かぶ島に築ずかれた城である。山の東半分は宅地化が進み、西半分は千間土手築堤時に土を掘出し、岩石が露出している。頂上付近には荒神社が祀ってあったが、今は天神社に合祀され何もない。その跡地は墓地になっている。周辺は干拓により陸地になっており、山の中も原状が変わっているので、中世城郭の遺構は全く不明である。『日本城郭体系』に梶島山城跡略測図が載っているが、現状からはそれもはっきりしない。梶島山城は海上交通が陸地沿いに行われていた時代にあっては、海上監視の格好の場所として出入



梶島山城跡



梶島山城跡略測図（S＝1：2,000）

りする船の取締りの要地であった。「五ヶの手嶋の城」の一つと言われている。　天文年間には手城島城へ渡辺氏が攻寄せた際に、梶島には倉田孫太郎（国清）以下５０騎ばかりがいたが、渡辺勢に攻落とされ、孫太郎は手城島城に逃げて後、神辺城の山名氏政の取成しで和睦したという伝承があり（『備後太平記』）、福山湾の要衝として水軍の根拠地となっていた。

（２）梶島山と太田氏

太田氏は水野家臣として三河譜代のものであるが、水野家を浪人した太田市兵ヱ正重が梶島山麓に寛文６年に入植した。この太田氏が手城新涯造成に重要な役割を演じた。その功績として梶島山一帯の開発地を知行地として与えられ山の北麓に居を構えたのであろう。

現在も太田屋敷跡という地名があり、太田の井戸も残っており、水道が普及するまで梶島山の人々は、その恩恵に預っていた。また、山の西側の岩の上には太田家代々の墓が現存する。太田氏が祀った観音様があり今も８月１７日にお祭りをしている。

（３）岩竹山普門庵跡

水野勝成公の菩提寺の賢忠寺四代の学海和尚開基の草庵跡がある。これにより山の南側麓を「庵ノ下」という。

７）宅部地区

宅部の史跡調査のため地区の古老（岩崎宗一氏）を尋ねて話を聞いた。

（１）宅部古墳と宅部貝塚

宅部とは古代の家部が訛って「たくべ」と呼ぶようになったといわれている。家部は家人のことで本主に仕えた人達である。古代からその部族が、この地に居住して居たので地名となったといわれている。

宅部貝塚

こうしたことから、この地

区に、古くから人が住んでいたことは確かで、その遺跡があって当然である。

宅部には古墳や貝塚があったとされているので、まず、古墳があったとされる、鶴の巣というところへ行ってみたが、大きな石がたくさんあっても古墳は見つからなかった。鶴の巣の近くに四十分団地ができており、その開発の際、壊されたのかもしれない。

宅部貝塚は『福山市史』によると、須恵器のでる貝塚として知られている。その所在ははっきりしないが、藤井一三氏宅あたりの藪を掘ると貝殻が沢山出てくるので貝塚の跡かもしれないとのことで、現地に行ってみたところ、貝殻が層をなして残っているところがある。

（２）宅部城跡（天道神社跡）

宅部城は「五ヶの手嶋の城」と言われ、中世には海上監視的役割を果たした砦であったといわれている。慶長５年の関ヶ原の戦いのころ、田久辺長左ヱ門なる人物が支配していたといわれる城である。

宅部城のことを天道山城ともいう。、これは正保３年（１６４６）に藤井惣兵ヱ久政という人がここに天道神社を祀った時から、この山が天道山といわれるようになったためであり、宅部城跡が天道神社跡でもある。

天道神社は素嵯鳴尊・奇稲田媛命・大巳貴命の三神が祀られていたが、寛文年間に大巳貴命の一神を海岸船隠湾に新田を造成したさい、ここに別幣した。それから、この地を宮ノ谷というようになった。

宮ノ谷に別幣してから福山湾で船が転覆することが再々起こったので、再度手城島に移したという伝説がある。手城島に移されて天当大明神として祀られている。天道神社は大正１４年に現在の天神社に合祀されて、天道山には手洗石を残すのみとなっていた。福山市に合併後、引野幼稚園や小学校が建設され、何時の間にか手洗石も無くなり、昔の面影は全く無くなったとのことであった。

８）不動里地区

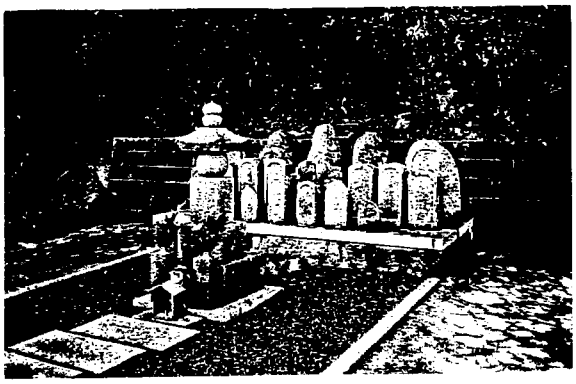
宅部地区の探訪を終え、不動里地区の古老（藤井義雄氏）宅を尋ねて話を聞いた。

不動里の地名のおこりは、平安時代に非常用の米穀を貯蔵した官倉が設けられ、それを不動倉といった。この不動倉が置かれた里という事で不動里というようになった。この不動倉が置かれたと思われる地点には、昭和３０年

頃まで、「上不動里」「中不動里」という屋号の旧家（佐藤氏）があったが今は畑になっている。

（1）惣久池

惣久池は別名天道池とも言う。この池は江戸時代に藤井惣兵ヱ久政という人が造った池である。藤井惣兵ヱ久政は惣久とも常久ともいわれ、宅部城跡に天道大明神を祀り、引野村民が氏神として祀った。そして、引野沼田造成を指揮し、引野の庄屋を務めた。



藤井惣久の墓

この藤井惣久の墓が天道山の北側麓に祀らけているが、古い墓の中に法名常光が読み取れる。

福山市へ合併後の開発で天道山に小学校や幼稚園が造られた。その土地造成工事の時に、鎌倉時代の鏡の蓬莱鏡が出土した。現在は岸田圭一氏が保管されている。

9）山ノ上地区

山ノ上地区は矢崎の城跡から調査を始めることにし、山の麓に祀ってある矢崎明神の管理をされている山崎信義氏を訪ね話を聞いた。

（1）矢崎城跡

矢崎城跡は引野の山ノ上の西端にあり、谷地池の北側の山の上にある。昔は福山湾に突き出した岬にあり、海上交通の見張り的役割をした城であった。

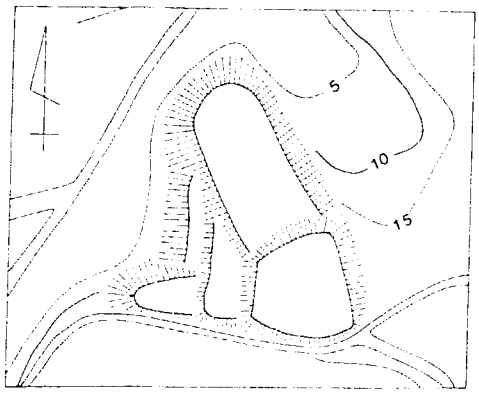
矢崎城には讃岐の塩飽諸島の領主豊後守光義の分家にあたる塩飽帯刀光政が在城した

矢崎城跡

とされ、光政は山田の渡辺氏の幕下に属していた。

塩飽氏の後に山崎氏も城主であったという記録がある。

まず、矢崎山の中腹に祀られている石鎚神社に参り御神体を拝見した。注連柱が断崖の上に立っており、昔は海から参っていたものと思える。



矢ノ島城跡略測図（S＝1：2,000）

谷地池の北西角に祀られている大師堂の脇から矢崎山の頂上に登った。山の中腹に山崎氏の先祖を祀るという元禄墓が二基ある。南側に郭と思える平地があり、今は山崎氏の墓地になっている。その中に寛延年間の笠の付いた墓がある。

山の頂上に本丸跡と思われる平地があるが、今は畑になっており、往時を偲ぶものは何にもない。『日本城郭大系』の城測量図と現地を合わせて見たが、はっきりした城の遺構は見つからない。現地のおばあさん（池田氏・８０才）の話では、麓にある矢崎明神は昔は本丸にあり、その側に藁家があった。本丸東南に池があり、今は池田家の堀になっているとのことである。

北東に道が通っているが、これが堀切の跡ではないかといわれている。

（２）谷地古墳

『福山市史』や『引野町誌』には、谷地池の周辺に谷地１号、２号の古墳があり、現在は破壊されてなくなっていると載っている。

そこで所在地の小砂子へ行ってみた。谷地池の東側の小高い山で、今はその南側は墓地になっている。

５０年ぐらい前まで、その山の上にドンドロ様が祀ってあってお祭りをしていた。その所には大きな石があったとのことである。現在は雑木が繁り入山がむずかしい状態である。

１０）竹ノ内地区

竹ノ内には塩出の城跡がある。塩出東吾という人がその末裔で、その人が亡くなって家はなくなったが、屋敷跡は残っているというので尋ねてみ

た。

（１）塩出城跡

『西備名区』に引嶋塩出城とでており、『広島郷土史』には引島塩出城は伊勢の人、四王天伊勢守が城主であったとある。古地にあった伊勢神宮はこの人が勧進したものである。

竹ノ内の旧道沿いに竹ノ内観音が祀ってあり、その横に「南無阿弥陀仏」の大きな石碑が立っている。その裏に六地蔵が祀られている。その奥の小高い所が塩出家の古い墓地になっている。その一番奥に最近塩出氏ゆかりの人が「塩出城主塩出伊勢守供養塔」という石碑を立てている。

城跡は開発が進みそばに民家が迫っており、狭く小高い丘のような形で残っているが何とか往時を偲ぶことができる。

塩出伊勢守供養塔

１１）古地地区

古地地区は引野で最も古くから人々が住んだところとされている。ＪＲ山陽線の北側の山沿いで、大門との境界の西側にあたり、引野湾の東北隅に位置する。古くは良好な港で賑わった所とされている。それで古地といわれるようになった。

（１）医王寺

引野の国道２号線日和峠とＪＲ山陽線を挟んで北側に見える寺が東覚山医王寺で、現在引野町唯一の寺である。

口伝によると、備中篠坂から移したといわれ、寛永１５年海雲寺池のほとりに創建された。その後、引野佃沖新田が造成され多くの入殖者があり、正保年中に現在地に再興された。開基は慈覚大師といわれるが、同師法系の僧による開山であろう。本尊は薬師如来座像である。

草戸の明王院の末寺として真言宗大覚寺派の寺である。現在の建物は嘉永

６年に御調にあったものを移築し、明治１６年に改築したものである。
寺には医王寺縁起書など多くの古文書がある。

（２）普門山明観寺

医王寺の末寺といわれるが証すべきものはない。本尊は十一面観音立像であり、古い厨子の中に納められている。古くより無住のため荒れ果てて草葺きの庵があったというが、それも壊れ、現在は世話方の尽力によりお堂が建てられ、本尊と寺の周りにあった古い墓が祀られている。

医王寺から谷を一つ西側に登った頂上に近い所の民家の裏側にひっそりと建っている。昔は霊験あらたかで、お参りする人もあったが、最近はあまり訪れる人も無いようである。

（３）伊勢神社

伊勢国から来住した塩出氏が伊勢本宮より勧請し寺砂子という場所に祀ったとされ、大正４年の引野天神社への合祀まで、塩出一族が氏子当番をし、濁り酒をふるまって祭りをしていた。寄宮の後は社地もなくなり、この社の裏山一帯の団地「伊勢が丘」にその名を残すのみとなっている。明觀寺前の山口アヤ子さんの話では、鉄道の北側くぐりより東側の小高い丘を昔は神様の土地といっていたが、いつの間にか民家が建った。伊勢神社と何らかの関連があったのかも知れない。

（４）太輪山神社

昔、妙見端の上がり口の海岸に夫婦岩があり、正保年中の新田開発当時福山から笠岡への道を付けた時、その岩が埋没した。その後いろいろと災害が起こるので、この岩を掘り出して祀った。

明治９年に太輪山に担ぎ上げ草庵を建てて祀った。また備中高松の最上稲荷社を勧進し、明治１３年にはコレラが流行ったので美作の木之山神社も勧請して三神合祀の神社とした。さらに、大正１２年に備中神ノ島より月神社の別弊をうけた。そして妙見社の月神社神号石も太輪山に移した。同時に金比羅宮を祀り五社合して太輪山神社の神号のもとにお祭りをするようになった。

毎年７月２６日の祭典と月神社の冬至祭には、人々で賑わうようになったとのことである。

太輪山神社は古地の四番の山頂にあって森に囲まれており、地理不案内のものには所在が判らない。ＮＫＫの幹部社宅の南西の森の中にある。

１２）内田地区

古地から西に５００Ｍ程、旧国道２号線に沿って行くと小山が北側にある。この山を天神山といい、この山の西北が内田地区である。この山に引野の氏神の天神社が祀られている。

内田という地名は天神山の西端の櫛山と前古屋の東端の崎山を結び潮止めをして新田を造った。これが崎山と櫛山の内にある田であったことから、この名がついたといわれている。

（１）天神社

天神社は天神山の頂上にあり、山の南側に、福山から笠岡への街道旧国道２号線が通っており、で、この街道のすぐ脇に石の鳥居があり、すぐ上に登る石段がある。石段に沿って玉垣が山頂に続いている。この石段を三分の二程登ったところに随神門があり、石段を登り切るとすぐに拝殿があって本殿に続く。

天神社の前身は荒神社で祭神は少彦名神といわれている。

正徳年中に瓦葺きの拝殿を建て、随神門を造り、参道ができ、鳥居が建ち、村の荒神が天神社として祭られるようになった。

その後、引野村では村内の２１社を大正３年から５年に合祀しており、村内各部落はあった神神が、一同に会している。現在の社殿は明治９年に新築したものである。拝殿の東方端に瓦葺きの建物があるが、これは梶島山の荒神社の建物を移築したものである。

西方端の建物は諸房神社で、昭和５４年に建物を新しくしている。諸房神社は平安時代の備後国司藤原諸房夫妻の善政に感謝し、その徳を神として祀ったものである。「もろぶささん」といって村民がその業績を追慕して小祠を建て、災害守護を祈ったものである。諸房さんを倉田氏が櫛山砦の跡に勸進して祀り、代々自家守護神として祀って来たものである。諸房神社由緒書があり、それに詳しく説明されている。

天神社の境内にはこれらのほかに、戦争で兵士として命を失った人を祀る忠魂碑が建っている。昭和４５年に天神山の東北麓から車が登る道がつけら

れた。今回この道から車で参拝した。

（２）櫛山城跡

天神社の西隣に祀られている諸房さんが福山湾内をあらす海賊を取締まるために櫛山に砦を築いたのが始まりとされる。

現在、城跡の山が削り取られて無くなり、団地と化しており、城跡と思われる所に串山公園が造られている。

１３）前古屋地区

前古屋は引野の入り口であり、引野村の部落の区分けは、ここから始まる。高崎から東へ旧国道２号線に沿って北側に連なる集落である。

前古屋の地名のいわれは、次のとうりである。引野佃沖干拓が行われた正保年中、この地に水野藩普請奉行の指揮監督小屋が置かれた。春日池や吉田新涯造成のために置かれた小屋を上古屋といい、上古屋に対し南すなわち前に位置するので前古屋といった。

（１）高崎砦跡

前古屋の裏の丘陵の西端が高崎で、福山湾に突き出した半島の先端である。海上交通の監視に格好の場となっていたようで、砦が設けられていた。

現在はこの山の端を崩しており、砦の遺構は全く無くなっている。

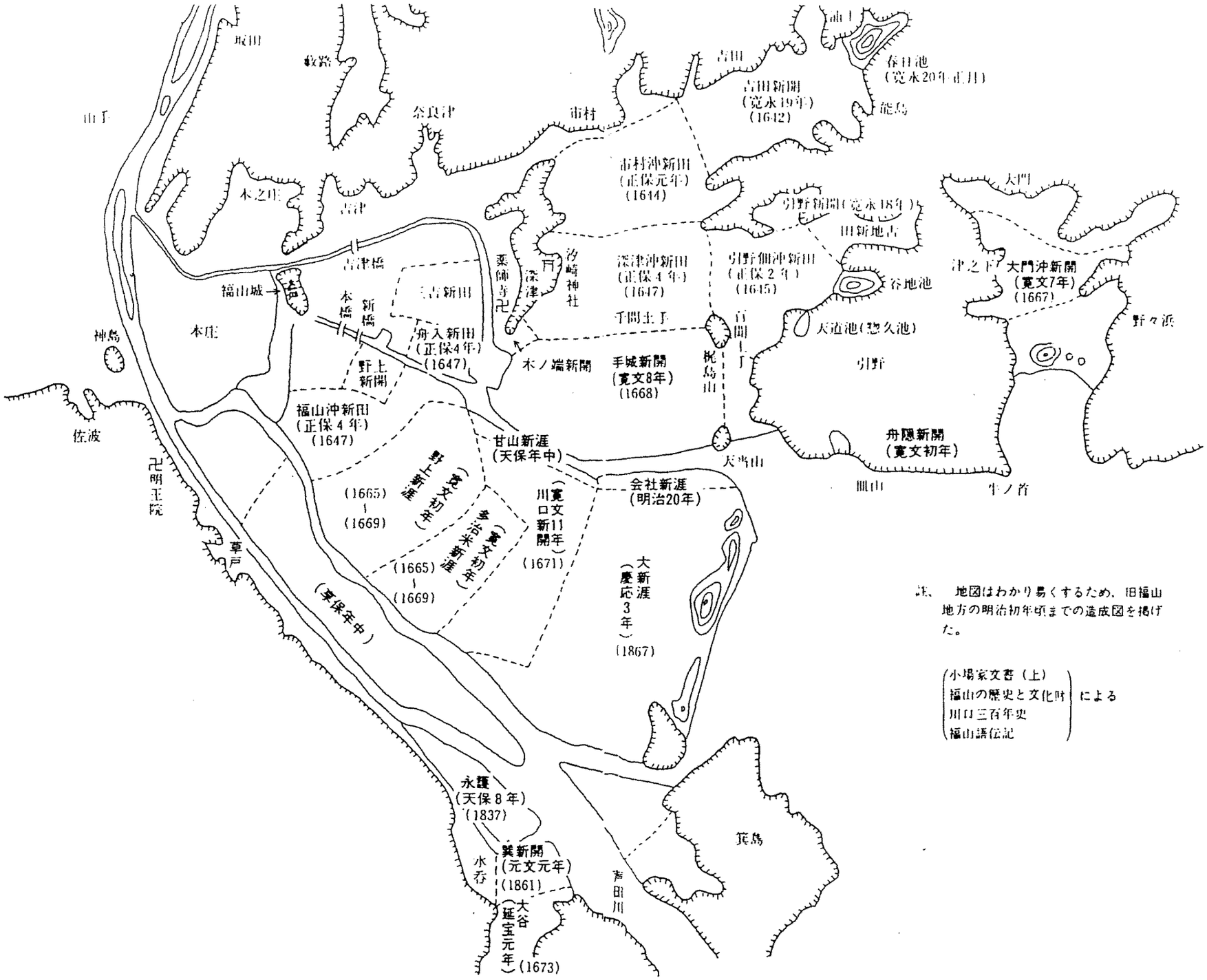
（資料作成・三好勝芳）

以上

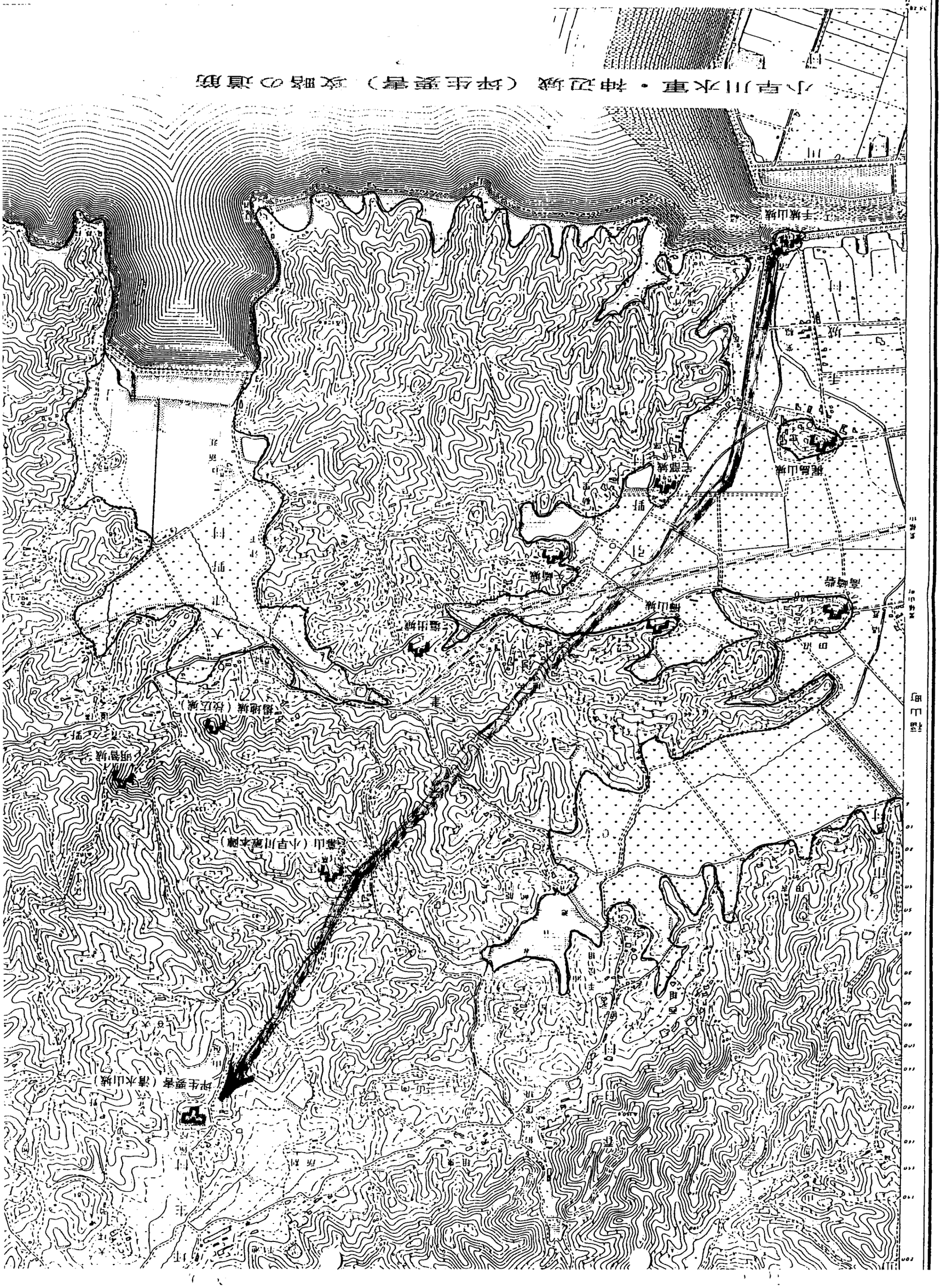
富山市引野町地図

引野町北(一)
引野町北(二)
引野町北(五)
伊勢丘(一)
引野町(二)
引野町(三)
引野町(四)
引野町(五)
引野町
東手城町(二)
東手城町(四)
東手城町(一)
手城町(一)
谷地
塩出城跡
医王寺
伊勢神社
明観寺
太輪山神社
天神社
諸房神社
柳山城跡
高崎砦跡
新岩谷窯跡
長崎古墳
岩谷焼皿山窯
沖浦大師堂
手城山城跡
長浜貝塚
梶島山城跡
太田の観音
普門庵跡
宅部貝塚跡
宅部城跡
常光の墓
不動倉の里
矢崎城跡
谷地古墳

水野干拓



註、　地図はわかり易くするため，旧福山地方の明治初年頃までの造成図を掲げた。

（小場家文書（上）
福山の歴史と文化財
川口三百年史
福山語伝記）による

小早川水軍・神辺城（坪生要害）攻略の道筋